【開会のあいさつ】

小　池　和　彰
東北学院大学経営学部教授

皆さん，こんにちは。東北学院大学経営学部の小池和彰です。今日は，皆さん，お忙しいところ，お集まりいただき，本当にありがとうございます。きょうのテーマは，環境と経済ということなんですけれども，やはり，環境問題とか，そういうものに対する関心っていうのは，今非常に，高まっているかと思います。私も十何年か前に結婚したばっかりの頃はですね。ごみの分別で，よく妻ともめたんですね。実は私，その時，京都勤務だったんですが，京都はごみの分別に関して意外とルーズだったんです。昔は。適当にごみ，どかどか入れて捨てればいい，それだけだったんです。仙台の場合は分別っていうのが，十何年か前に，すでに入っていて，妻ともめたんですね。金属片みたいなものを持ち出してきて。これは燃えるんじゃないか。本気でやったら燃えるぞとか，私，主張するんですね。そうすると，妻が怒る。いつもけんかばかりって感じだったんです。それで，うちの妻は夫には厳しいが，環境には優しいといつも私言っていました。

さて，財務会計のほうも，環境問題に影響を受けていまして，2010年には，資産除去債務の会計が制度化されています。問題もありまして，FASB，アメリカの会計基準を作っている団体なんですけれども，あそこが出している概念フレームワークという資産の定義によれば，資産というのはキャッシュフローを生むのだと書いてある。でも，資産除去債務は，ご存じのように，キャッシュ・アウトフローは生じるが，キャッシュ・インフローは生じない。キャッシュ・インフローを生じないのが，資産なのかっていう問題があります。

また，財務会計の現代のハイブリッドな会計，それを象徴しているのが，資産除去債務会計だと思うんですけども。負債の方は，除去債務を現在価値に換算するという意味では，資産・負債アプローチです。また，資産の部の方に目を転じますと，資産の方に除去費用が入って，それが，繰り延べられて，減価償却費という形で，費用化していくという点では，収益費用アプローチなんです。従来の収益費用アプローチでして，そういう意味で，ハイブリッドな会計ということになっています。

さて，きょうのテーマは，環境と経済ということです。講師の先生は本学法学部のOBであり，現在，経営士をされている山下健二先生です。山下健二先生よろしくお願いいたします。